

# 鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

## 第9回ワークショップ会議録

日 時：平成24年7月28日（土） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市役所 第3分庁舎講堂

参加者：公募市民：10名 関係団体：10名 計：20名 傍聴者：10名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市市民活動部産業振興課

加藤課長、近田課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

浪川職員、田島職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生7名

プログラム

第1部

- ① 第8回ワークショップの議事概要
- ② 漁対協案と代替案の定性的な比較

第2部

- ③ 検討テーマについて
- ④ 全体ワーキング

終わりに

- ⑤ 次回のご案内

配布資料

第9回ワークショップ 次 第

資料－1：第8回ワークショップで出された主な意見

資料－2：漁対協案・代替案の定性的な比較

資料－3：解決したい課題とその対策例および懸案事項

## 第1部

### ① 第8回ワークショップの議事概要

第8回ワークショップの議事概要について、事務局から「資料-1 第8回ワークショップで出された主な意見」より概略説明を行いました。

その後、以下の通り意見交換が行われました。

参加者：話し合いを行うにあたってのところになると思いますが、前にどなたかが発言した、この部分は絶対駄目ということだけを示しておけば他の案などは考えなくても良いのではないかと、という意見があったと思います。それでまとめてはどうかという意見があったと思います。

事務局：その意見は付け加えさせていただきます。

### ② 漁対協案と代替案の定性的な比較

漁対協案と代替案の定性的な比較について、事務局から「資料-2 漁対協案・代替案の定性的な比較」について、概略説明を行い、その後、意見交換が行われました。

事務局：それではお手元の資料-2の方をご覧くださいと思います。非常に文章が多くなってしまっていますので、少しわかりにくいかと思うのですが、かいつまんでご説明をしたいと思います。

最初に申し上げておきたいのは、ここに示しました内容については、全てを網羅している訳ではございません。あくまでも概略的な入口という風にお考えいただきたいと思います。昨年度のワークショップ（以下「WS」という。）の中でいくつか代替的な案があるのではないかとという風に、過去、お話をされていった中にも出てきた訳ですけれども、まずは鎌倉漁港対策協議会（以下「漁対協」という。）等で話し合われてきました埋め立てによる案、それに代替するべく掘り込み式の案、そして和賀江嶋を再整備する案、現況の機能を強化させて何とか今の形で運営できないかという案、それから、周りに色々港がありますので、そういった港に機能を移せないかという案、というのが概ねあったと思います。

今、ここに申し上げた五つの案を並行的に比較させていただいて います。一番上が概要ということで、埋め立てによるものなのか、掘り込んで港を造るのか、この二つが港を造るという大きな案になります。代替案の2というのが和賀江嶋の案ですが、ここは、今皆さんの前に大きな地図がありますが、一番こちら側ですね、奥の方にあります和賀江嶋、鎌倉時代の港だったと言われておりますが、ここを再整備してはどうかという案。現況の機能等を今ある位置、それぞれポストがあると思うの

## 第9回ワークショップ議事録

ですが、坂ノ下、材木座、飯島、これらの部分でそれぞれ機能を強化させてはどうか、あるいはどこか一箇所に集約できないかといった議論があるかと思います。それと、この浜からは漁港の機能をなくすというか移行させるのですが、周りに、例えば鎌倉市で言いますと腰越漁港とか、色々な港を利用できないだろうかという案が出されています。それぞれこういった整備を考えた時に、考えられる影響というものを表の中では一番左側に示しています。例えば地形や自然に対する影響、あるいは海域利用への影響、それから、自然環境、そういったものに影響があるでしょう。あるいは景観や眺望、物を造れば当然景色を変えてしまいますので、そういった影響を与える可能性があります。同じく、そういった関係から、観光あるいは交通などに影響があるのではないかと、といったことがここに整理してあります。

大きく申し上げますと、まず皆さんが十分ご懸念されている通り、例えば埋め立てをしますと、その埋め立てによって新しい施設が海にできますので、それによって波の流れに影響が出ます。そういったもので、現状の浜の地形などに影響が出るでしょう。あるいは浜の利用についても波の影響により、例えばサーフィンを楽しんでいる方などへの影響は十分考えられます。その一方、港を造るということは、今ある浜小屋といった機能を浜から撤収することになりますので、浜全体の利用に対しては寄与することが大きいのではないかと、いう風に考えています。

一方、やはり、物を造る場合には、特に埋め立て案、従前から色々ご意見が出ていましたが、直接的に藻場ですとか、岩礁帯、生命のゆりかごと言われておりますが、そういったところをつぶしてしまう可能性があります。その影響がどのくらいなのかというところに気をつけておく必要があると考えています。このような問題が特に港を造る時に多く出されてくるだろうと思います。

もう一つ、港の整備の代替として和賀江嶋という話題が、これまでもこのWSでも出されています。ちょうど中段真ん中あたりに赤い字で示しておりますが、この和賀江嶋については、国指定の史跡です。これは従前私どもの方からも申し上げている通りで、中々ここを整備するというのが現状では事実上不可能であるというのが現段階での結論となっています。遠くの方は少し見づらいので後ほど動いていただいても構わないので、和賀江嶋を見ていただきたいのですが、和賀江嶋の周りに青の線が入っております。少し図面範囲を超えていますが、これが史跡としての指定の範囲です。思ったよりも広いところで、この範囲の中は事実上、

## 第9回ワークショップ議事録

手はつけられないということですので、その辺はご理解いただきたいと考えております。

現況の浜にある機能を強化したりする場合、どういった影響が出るかですが、現況を全く変えなければ当然影響もなく、今のままですが、それでは浜で今解決したいことが十分対応できません。それに対して、例えば今ある斜路の機能を強化すると、浜への影響が当然出てきてしまうということが言えます。

もう一つは、浜小屋を集約することにより周辺のどこかの浜を解放し浜の利用を向上させるということも考えられますので、その辺のところを取捨選択して考えて行けば、もしかしたら素晴らしい案ができるかもしれないので、今後も少し話を進めていけるのかと考えております。

最後に他港への移行ということですが、これにつきましては、現在私の方で多少なりとも把握しておりますのは、とりあえず、周りにいくつかの港がありますが、そこでは漁業をするスペースも含めると、漁船を受け入れていく、漁業をそこで営んでいくというスペースが確保できない、ということはつかんでおります。実際にマリーナなどのプレジャーボートを停めるようなスペースでは、漁船という漁業が入り込むスペースが中々難しいということを考えております。マリーナというのは基本的に大型の船を水面係留し、小型の船は陸揚げするということになっておりますので、利用の仕方としても、やはり、通常前浜へ出ていきたいという漁業とは少し使い方が異なってまいりますので、その辺の問題もあって、他港への移行というのは難しいのではないかという風に考えております。ここで他港への移行ということについて少し詳しい情報を事務局の方からお伝えしたいと思っております。

事務局：お手元の2枚目の方に周辺のどんなところに港があるかというのを示している図があると思っております。坂ノ下、材木座、といった地区から考えますと、江ノ島の湘南港、腰越漁港、逗子マリーナ、小坪漁港、葉山マリーナがあると思っております。

葉山マリーナのところには隣接して葉山港という港がありまして、こちらの方でもプレジャーボートの受け入れをやっていると思っておりますが、そういう形になっています。

湘南港に関しましては、今、陸上係留のところにディングーヨット129隻の空きがあるということですが、これはもう陸上に係留する小型の船の置き場です。全長5m程度のものです。

それから、腰越漁港に関しましては、ただいま、漁船が全部入りきれて

## 第9回ワークショップ議事録

いません。充足率としては 88%程度という風になっておりまして、余裕はないということです。

それから逗子マリーナに関しましても、基本的には余裕がないということと、民間マリーナですので、常時係留という形になりますと、非常に金額のかかるものです。例えば係留ですと、保管料が 1 年間で 286 万円というのがホームページに出ています。それ以外にも保証金ですとかそういったものが掛かりますので、一般的に民間マリーナ、例えば葉山マリーナと言ったものも、同じような料金設定になっているところでございます。

小坪漁港に関しましても、今現在使われている漁港でございまして、これに関しても、鎌倉の漁船を全部受け入れるほどの空きはないとのことです。受け入れたとしても数隻であろうということをお願いしております。それから、葉山港も葉山マリーナの方も、今のところ空きが無いという状況です。以上です。

事務局：「資料－2 漁対協案・代替案の定性的な比較」の一覧表に戻していただきたいのですが、私どもが今回この構想を色々検討していく上で大きな課題となっておりますのが、道路交通等への影響があります。今、元々の坂ノ下の埋立地の前面側に埋め立て式で造る場合には、当然そこと港をつなぐための出入り口が必要となってきますので、そういった出入り口を造ると 134 号線への影響が出るのではないかとということが懸念されます。実際には、この一番下のアスタリスク印、真ん中になります。漁業者の方々が 100 人も 200 人も出入りする訳ではありませんし、事実上ここの出入りの利用は早朝、どんなに遅くても昼までということで、時間帯としては交通量のピークとなるころとは概ね外れてくるので、それほど影響を与えるものではない、軽微だろうと想定しております。

例えば、皆さんの中からも再度検討してほしいということで掘り込み式というお話が出たのですが、ちょうど今一番向こう側の市営プールの前、あるいはその背後、といった土地を利用して掘り込み式ができないかということですが、そこと海との間に 134 号線が通っている関係で、そこと海との間は航路で船が行き来できるようにしなければなりませんから、当然 134 号は少し路面を上げて橋梁化してそこを乗り越えなければならぬという課題が考えられます。この二つの埋め立てなのか、掘り込みなのか、というのは道路の部分をお互いに検討しながら、何が良いのかということを検討しなければいけません。それと、下から 2 番目の欄で

## 第9回ワークショップ議事録

すが、主な工事ということで、本当は皆さんへ具体的な金額を挙げさせていただければ良いのですが、規模をどのくらいにするかということがまだ明確になっていませんので、中々金額として皆さまにお示しすることはまだ難しい段階です。最終的にもう少しWSが進んでいく段階で、金額的なものがもし提示可能であれば、概算ではありますが、私の方からお出ししたいと考えております。ここでは、どんな施設が想定されて、どんな工事が考えられるのか、といったようなことを挙げさせていただいています。一番左の埋め立てからいきますと、例えば防波堤とか護岸、係船岸、それから当然埋め立ての工事が入ります。それから港の中を通すためのアクセスも含めて道路の工事が必要となります。それと、将来的には維持管理のための泊地や航路の浚渫ですとか施設の維持補修費等が掛かってきます。これは、どこの案をとっても大体同じなのですが、例えば掘り込み式ですと、先ほどの話のように、134号関連の工事を含めなければならないということがあります。そういった内容をここに列記させていただいております。今、浜小屋は砂地の上に建っていますが、そこをしっかりと人工地盤化して波の立たないところ、波の上がらないところに浜小屋を作れるようにしてあげたり、ということも考えられます。そういった施設の整備はお金が掛かります。他港への移転ということは、他の港を造る案ほど金額は掛からないのではないかという考えです。もし他港へ移るのであれば、再整備の必要がなければ今以上にお金が掛かるということはありませんので、そういったことがこの主な工事の欄に書いてあります。

先ほど申し上げたように、和賀江嶋の案と他港への移行という案、この二案については、今の和賀江嶋の史跡としての状態、それと今ご説明しました他港には十分なスペースが無いという二つの条件がございますので、この二つの内容については、今後このWSの中で検討をしていっても、実現に至ることは難しいので、基本的な検討項目からは除いていただければ良いのかなという風に考えております。

従いまして、今後、この左側の二つの案、漁港として何かを造る案、それから、今の浜の状態をより良くしていく案、この二つの案が主な検討としてはあるのではないかと考えています。これはあくまでも具体的なイメージをつくる場合ということですので、先ほど提案や意見のあった制約事項だけを提案すれば良いのではないかというのも、当然、含めていただければよろしいと思います。先ほどちょっと見ていただいた図などがあるのですが、埋め立て式というところで平成22年度と書いてありま

## 第9回ワークショップ議事録

すが、これは第3次の漁対協等に漁業者さんからの提案で出させていた  
だいた平面の案です。これは、全体の規模としてはかなり大きくなって  
いるとイメージしていただいて良いと思います。ただ、例えば、天日干  
し用地ですとか天日加工場ですとか、スロープの延長ですとか、本当に  
これで足りるのかという精査は必要です。ですから、漁対協でこれが認  
められたものではございません。掘り込み式については、過去、具体的  
な資料というのが市の方から出されている物はありませんので、イメ  
ージとして県内の平塚漁港、これは相模川の中にある古い漁港ですが、こ  
の平面図です。あと、既往施設の強化の方につきましては、提示できる  
資料がございませんので、今回は提示を割愛させていただいております。  
あと、参考ということで先ほどご説明のあった周りにどんな港があるか  
という資料になっております。資料-2については以上です。

参加者：資料に関する質問が三点ほどあります。

他港への拠点移行は難しいということで検討から外すという話があり  
ましたが、施設の機能強化との組み合わせで案があり得るのではないかと  
いうのが一点です。例えば緊急の時や台風の時には、他港を借りるとい  
う案があるのではないのでしょうか。

二点目として、腰越漁港の充足率が88%という話でしたが、隻数でど  
の程度の余裕があるのか教えていただきたいです。

それから、アスタリスク印のところに周辺交通への影響に関して書いて  
ありますが、実際に周辺に住んでいる者からすると、朝の通勤時のマイカ  
ーでの渋滞に重ならないのか、渋滞以外の騒音や匂いなどがこの資料には  
盛り込まれていないようですが、その影響についてどのように考えている  
のか教えてほしいです。

事務局：一点目の、現況の施設の強化と部分的な他港利用についてですが、荒天  
時に小型船を他港に逃がすという考え方はあると思います。ただ、漁業  
者というのは多くの漁具を持っています。これは是非現地に行って漁業  
者さんがこういうことをやっているというのを皆さんにも理解していただ  
きたいです。たくさんの道具と網を直したり保管したりするような  
色々なスペースが必要です。そういった機能を併せて他港にもっていく  
のが難しいということです。逃げるスペースとしての他港はあり得ます  
が、漁協全体を動かしていくのは難しいということです。例えば、自分  
の家の普段使わないものをコンテナ倉庫に入れるということはできるだ  
ろうが、漁業の場合、毎日使うものがあったり、季節ごとに入れ替えたり  
する必要があるので、ある程度の規模のものは一度に動かさなくては

## 第9回ワークショップ議事録

ならないということをご理解いただきたいです。

また、腰越の隻数ですが、腰越の場合は鎌倉と違い多少大きめの船もあります。最新の平成22年度のデータだと71隻あります。その内訳ですが、鎌倉は1トン未満の船が多いですが、腰越には5トンから10トン、10トンから20トンと、トン数で言えば圧倒的に大きい船があります。充足率88%というのは、腰越の整備後に実際の隻数・大きさを勘案し係留可能な延長を充足率の計算法から算出すると、係留する船に対して必要な延長の比率が全体で88%であり、まだ100%に達していないということです。ただし、新しく造る部分に幅20m程度の斜路式の船揚場があり、これについては鎌倉漁業協同組合（以下「漁協」という。）が台風時などに一時的に避難できるような部分として確保しています。小さい船が15、16隻入る程度のスペースです。いずれにしても計算上ではありますが、今の腰越の船、小型の船を一時避難させたとしても、まだ100%の充足率は満たない状況です。拠点として移行するのは大変むずかしい状況です。

最後の騒音・匂いについては考慮しなくてはならない項目だと思えます。話が進んでいく中で検討しますが、影響がないということはないと思います。腰越の時にも騒音や臭気などについて想定しているので、鎌倉で整備する場所が決まれば、その調査や実際に漁港を使用する際の臭気、工事の内容によって生じる臭いについてもきちんと予測し、対策を立てることが必要となってくると思っています。

参加者：今の説明がよくわからなかったのですが、12%の空いている部分の隻数がどのくらいあるのかということと、それプラス15、16隻は緊急時に対応できる、つまり30隻ぐらひは腰越の方にスペースがあると理解して良いですか。また、今必要となる隻数をもう一度確認したいです。

事務局：100%というのがちょうど充足しているということであり、それに対して88%というのは満たしていないということで必要な係船施設の延長がまだ12%不足しているということです。船の大きさにもよるので何隻分ということではできませんが、延長として私たちが考えているのは、あと50m程度の延長が腰越で確保できれば100%となるというのが、腰越漁港改修整備の設計時に出されていた数字です。

参加者：腰越で50m伸ばせば、鎌倉の分も入るということでしょうか。

事務局：そういうのではなく、腰越の船のことです。

参加者：では腰越も今、入りきっていないということでしょうか。

事務局：計算上はそういうことです。腰越では本来係留するところではない防波堤の裏などに係留してしのいでいます。今回の整備ではそれを何とかし



## 第9回ワークショップ議事録

ようと、防波堤の裏の一部に係留できる場所を認めてもらっていますが、斜路式の船揚場や岸壁部分を係留できる施設と考えると、やはり不足しているということになります。

参加者：この資料は少し足りないと思うところがあります。これまでの経緯で漁対協案埋め立て式というところで、第3次漁対協案として提示されています。こういうことが載っているにも関わらず、去年自分たちが行ったWSの成果が入っていないのはなぜなのでしょう。これまでの経緯としては重要な成果が出ているはずなので、それは載せていただきたいのですが、なぜ載っていないのでしょうか。

事務局：去年、例えばこの漁対協案に対する代替案はどのようなかという意見が出されたと思いますが、漁対協案、それに対する代替案としての掘り込み式、和賀江嶋という案が出されていたと思います。去年の報告書にある皆さんから出された代替案を評価項目に並べて書いたつもりです。今の意見はどのようなことを意味しているのでしょうか。

参加者：去年のWSの成果に「漁港建設が前提であるべきではなく、現時点では経済的にも東日本大震災に見舞われ、無理である」とここまで書かれているのに、どうしてこれがここに入っていないのでしょうか。

それから言えば、漁港を造る案は現時点では、無理ということになっているのに、それが書かかれていません。また、他港への拠点移行を簡単にここで外そうとしているのもおかしいです。この一年、三年など短い期間で解決しなければいけない問題がたくさんあるのに、どうしてすぐにできるかもしれないことをはずすのですか。まず、不足している部分は絶対に載せていただきたいし、他港への拠点移行を簡単にここでやめます、というのはいささかおかしいと思います。

事務局：ここに書かせていただいていたのは、去年の報告というよりは、具体的に出されたものに対してどんな評価ができるのか、という視点で書かせてもらったのであり、今言われたようなことは書いていないというのはその通りです。このWSで出された意見は、具体的にこういうものを造った方が良いという内容ではなかったと思いますので、書くとなればWSで出された意見をここに追加した方が良いかもしれませんが、これはあくまでも、具体的な事例に対して事務局で評価をしようと提出させていただいたということを理解いただきたいです。

また、他港への拠点移行について教えてほしいという意見がありました。これは調べた事実を載せました。金額などを提示してこれについて検討するのも良いかもしれませんが、今日の段階では事実を皆さんに説明

## 第9回ワークショップ議事録

したところですが。それでもやるのだということであれば、議論する価値はあるのかもしれませんが、それについて他の方はどうお考えなのでしょう。その金額でもトータルで何とかなるといった意見を出していただくことは決してダメと言っているつもりはないので、これについてはこれからのグループワーク（以下「GW」という。）で話をさせていただくことはかまわないと思っています。

参加者：では、さっきこの案については外した方が良くと言いましたが、外す必要はないのでしょうか。

事務局：例えば、逗子マリーナなどは保証金として一隻につき1,000万円もかかるような金額であって、それを現実的に漁業者さんがやるのかという点では、難しいだろうということで申し上げました。それを漁業者が出せないなら市が出せば良い、ということになれば、市の財政負担が出てきますが、漁業者さんのためにそこまでの補助は出せないというのはあります。

参加者：それでは漁港だって造れないでしょ。

事務局：こういうことがある、とまず皆さんにお知らせしてから考えていただきたいということです。そこで現実には難しいのではないのでしょうかというのを皆さんに投げかけをさせていただきました。

参加者：この前までのまとめまでで、現時点では話し合っただけというのが良いと決めるべきではない、というのが一つのまとめで終わって、その前にあった漁対協案というのがここにある埋め立て式の案というのが出てきて終わって、そっちのグループはそうで、3月までにやった今と同じメンバーは現時点では無理という結論で、矛盾しているが、それぞれが回答ですよね。その時点でのまとめですよね。この春から始まったこのグループというのは、それとそれは置いておいて、別に他にできることを考えましょうということですよ。

事務局：自分が思うところでは、確かに漁港は現時点では困難であるという結論を出していただきましたが、将来的に全くダメなのかということにしてほしくない、ということは皆さんにもご理解いただいたと思います。このように去年一年やり、今年もまたやっていくので、皆が共通の認識を持った中で、将来的なことになるとは思いますが、こういうものをやめてほしいなどそういう意見は残していただきたいと思います。

参加者：漁対協の埋め立ての案が一つ、この前の六項目程度がまとめになっているのがこの前のWSの一つの結論、もう一つの新しく始まったものと考えれば、他港への拠点移行、既存施設の強化、そういうことを中心に考

## 第9回ワークショップ議事録

えて行くと、三つぐらいを細かく分かれて考えたことになりますよね。完全に漁港を造るもの、漁港建設は今のところ無理というもの。ただ、今のところ無理という結論を出したグループで同じようにまた漁港を造るとしたら、ということを考えても同じ話を繰り返すことになり話が進まないの、それとは別に、ということを考えるのであれば、港ではなくて、今水産業の強化をどうするかとか、既存施設をもう少ししっかりした建物にしてやるのではないかと、港以外のことを考えてこちらの結論を作っておいて、三つを照らし合わせれば良いのではないのでしょうか。

事務局：そういう考え方もあるかもしれませんが。

参加者：同じことをやっていたら、結論が出ないことをずっとやり続けることになります。

事務局：漁対協の案は一例だが、そのエリアの中でこうしたらもっと良いものができるのではないかといいものも良いと思います。そういう事や既存施設の機能強化について話合っていたいただいても構わないですし、話し合っていた中で、仮に漁港ができなかった場合、当面このような支援できないのか、その時に課題として何が残るのかについてしっかりここで抑えていただきたいです。

参加者：秋にもまた台風が来るので、早く何とかしたいですよ。このままでは漁業者さんたちはまた船などを流されてしまうということを繰り返さなくてはなりません。だからこの秋にでも対策ができる方向にもっていった方が良いのではないのでしょうか。今すぐやらなければならないことを中心に話し合ったら良いと思います。

事務局：この秋はすぐなので対症療法的なことしかできません。皆さんにそこまで考えていただくのは厳しいと思います。既存の施設を強化していった方が良いというような話もそれほど具体的に突っ込んでないと思います。また、漁港建設という選択肢も捨てられている訳ではないので、市が勝手に組み入れてしまっただけ良いかという点で、具体的なそちらからのアクション・ご意見ということで、財政的には無理ということや優先順位的に無理ということではなくて、それらが解決されて将来できるのであれば、少しは位置をずらせば影響が少なくなり可能性は高くなるのかそこまではWSで話し合っていないと思います。

参加者：では、漁対協で出た埋め立て式で漁港を造るもので一案、私たちがこれから考えようとしているものが漁対協ではないものを造るとしたらというもので二案、というように結論になるということでしょうか。

## 第9回ワークショップ議事録

事務局：例えば漁対協案の埋め立て式について、制約事項として埋め立てはしてほしくないという人も必ずいると思います。漁対協案というのは一つの例として方針を提示していますが、埋め立ては絶対にしてほしくないという制約条件があるならば、どうやったら漁港ができるのかということを考えれば良いです。極端な話だが、稲村のところにある旧県営駐車場の用地があるんだから。

参加者：それも以前あったのに消えてますよね。

事務局：例えばそういうような話を突っ込んでいくなどです。例えば漁対協で出した案というのは背後地が道路になっているので、用地がなく埋め立てしできません。だから埋め立てしてほしくない人にとっては適地ではないということになり、何か良い方法がないのかという話になります。そういういった色々なバリエーションが出てくると思います。

参加者：それなら、これは港のバリエーションを作るという会なのではないでしょうか。

事務局：そうことをグループの中で検討していただくのは、大いに結構だと思います。

参加者：でも既存のことを考えることがあっても良いと思います。そっちを早くやらないと、また繰り返し被害に遭います。最近の台風は以前に比べて大きいので、もう少し今すぐにできる方法を考えた方が良いのではないかと思います。それはもちろん、漁港を造る案も必要ですが、しょっちゅう壊れているならば漁業者の皆さんも大変でしょう。何とかしたいです。

参加者：去年のWSの成果からすると、漁業振興の広いプランが示されるべきであると成果として書かれているはずですが、これは今あるのか、あるいは検討されているのでしょうか。むしろそれをしっかり議論するのと、直近で対策をうたなくてはいけないことをやるという、この二点が今やるべきことじゃないかというのが一点です。

またこの資料についてのお願いですが、これまでの経緯の部分を恣意的に書いている感じがするので、あくまで事務局見解としてほしいですし、項目を増やしてWSの成果ということをそれぞれの案に対してきちんと明示してほしいと思います。

最後に恣意的だと思う点として、漁港建設に数億、メンテナンスも含めると数十億かかるというのは議論に出ていたのに、先ほどの逗子マリーナの話は金額をシミュレーションすると、そちらの方が財政負担は少ないかもしれない。そういうことを恣意的に省くような動きがあるのは、すごく心外だと思います。

## 第9回ワークショップ議事録

参加者：漁業者の立場から言わせてもらいます。少し誤解があると思いますが、他港への拠点移行というのは二つの考え方があります。漁業の拠点を全て腰越に統合するという考え方と、緊急時に避難をするというのは全く違う考え方です。緊急時の船の避難は現在も腰越漁港に対して行われていますし、逗子マリーナや他のマリーナに対しても常時行われていることです。現在は全部の船を砂浜に上げて、一部の船は134号線に上げて避難しており、これに対する苦情も多いですが、これをやめてその全部を、例えば腰越漁港に避難できるかといったらできません。これは自分たちを信用してもらうしかありませんが、物理的に不可能なのです。一人で2隻の船を持っている人はどうしたら良いのか、ということを含めると、緊急時の避難に腰越漁港を恒常的に使うということは不可能です。今まであった例としては、沖に出ていた船がどうしても戻れなくなり、命の危険があるということで腰越に避難するということはありませんでした。これからもあると思います。そのために腰越漁業協同組合ではある程度のスペースを確保してくれていますが、他港への拠点移行、特に緊急時の避難ということに関しても、やはりそれが限界だというのが現実です。これはもう我々の経験を信用してもらうしかありません。

では、腰越漁港に全ての機能を移転するということについてですが、これはさらに不可能です。そんなスペースは全くないですし、腰越漁港が大反対するのは目に見えています。要するに漁の種類や色々なやり方などが地域の漁業者によって違うため、それらを統合するというのは不可能です。だから港というのは浦々にあるのです。震災で被害を受けた東北でも、そういう小さな漁港を統合して大きな漁港にしてしまおうという動きはありますが、やはり地元から反対されています。どうしてかというと、その浦々での漁業の特徴というものを、単純に大きくして一つに統合してしまえば良いということではないからです。これも漁業者の経験の中で、我々が知り得たこととして信用していただくしかないと思います。漁港を造るために何かそういうことが不可だとか、できないだとか言い訳をしているのではなく、これはこの仕事の特徴だと思っていただかなくてはなりません。

参加者：課長にお答えいただきたいです。水産物のビジョンはどうなっているのでしょうか。

参加者：ちょっと待ってください。この漁対協案および代替案などというのは、これは非常に物理的なことだけを示しています。もちろんソフトウェアのことを含めて論議しなくてはならないのはこのWSの義務ですが、今示

## 第9回ワークショップ議事録

されているのは物理的な構造物としての問題を比較しているので、今はこのことに特化してよろしいのではないのでしょうか。その上で、WSでこのような物理的なことについて色々ご提案いただいたし、我々もそれを受けて考え直したりしてきました。一旦は消えた掘り込み式の案は、漁対協案の製作過程で消えていったものですが、WSの一年間の討論の中で、やはりそれを見直した方が良いのではないか、というのが漁協の中での今の論議の中心になっていることです。それはやはり単に物理的に船をどうするというのも含めて漁港を造るのであれば、これからの鎌倉の漁業を含めた産業のシンボルとして観光客を招致できるような魅力のあるものにしていかなくてはならないことを考えると、単に船が何隻停められるという漁港ではダメだろうというのを含めて、この代替案の一の掘り込み式というのを、予算のことは外視して、もう一度きちんと考えようというのが今の我々の立場です。

それから、漁業者としてもう一つ言わせてもらおうと、既存施設の機能構造の強化ということに関しては、先ほど言った大きなビジョンで港を造っていくという場合、年数がかかるだろうということでした。その間、経過措置として最低でも漁具小屋の浸水を阻止する措置をしていただき、船の避難に関しては今まで通りやるしかありません。あるいは船の出し入れの危険というのはこれまで通りですが、最低、荒天時の漁具の保護だけはできるという意味で、経過措置として既存施設の機能構造の強化というのは是非ともお願いしたいというのが漁業者の立場です。

事務局：去年のWSで水産業のビジョンについてご提案いただき、今年度のWSをやっている最中には間に合わないと思いますが、その検討には入り始めたところです。水産業というと、漁業だけではなく流通や販売も含めて考えるということを念頭において、今年度関係する方に集まっていたいただき、検討を始めて、今年度ではできないかと思いますが、来年度ぐらいを目標に何らかの基本的な方向性を出していきたいと考えています。

参加者：どういった場で、どういったメンバーが集まって協議されているのかということと、それらが先なんじゃないですか。その結論・ビジョンが出た上でおっしゃった観光漁港が必要ということがそのビジョンの中に組み込まれ、その後、ある程度市民の合意なり総意なりが得られます。このWSの話はその上での話ではないでしょうか。

事務局：順番としてはその通りですが、去年から始まったWSの中で同様のご意見を頂き、私どもでも水産のビジョンが全くない訳ではありません。総合計画の中でも沿岸漁業の振興やそのための基盤整備が必要であるとい

## 第9回ワークショップ議事録

うようなことは出しています。もっと踏み込んだ観光や6次産業など、色々な細かいビジョンというのが計画としてはなかったもので、昨年ご意見を頂いて、私どもも必要だと考えています。順番が逆もしくは並行してしまうかもしれませんが、この中でそういった意見を我々が拾っていき、ビジョンを作る際に反映していきたいです。今の時点でそのビジョンを待ってやるということになってしまうと、このWSを中断しなくてはいけなくなってしまうので、それはちょっと置いておいていただき、このWSでの漁港の在り方などについて話して合ってもらいたいです。その中で水産業の振興についてご意見があれば提示していきたいと考えています。

参加者：どういう形式で、どんな形で検討しているのですか。

事務局：まだ具体的には始めていませんが、これからしようと考えているのは、漁業者の方、市内の加工業者の方、アドバイザーのような方が入って、今の状況で何ができるのかを考えましょう、とりあえずテーブルに一回つきましようというのは考えています。具体的なメンバーをどこまで広げていくかについては、現時点ではまだ決まっています。

参加者：水産業のビジョンを行政に考えさせるのはお門違いです。それを考えていくのが我々なのです。行政をつついても何も出てきません。ビジョンを作っていくのは我々漁業者と鎌倉の市民の仕事なのです。我々も確かに力が足りませんでした、今後は一緒にやっていきたいです。行政にいくら聞いても返ってこないです。行政を批判している訳ではなく、行政とはそういうものなのです。

もう一つ行政に対して質問したいのは、掘り込み式案は経済的な問題で否定されますが、134号線をかさ上げすることにより防災効果が向上するかもしれません。老朽化した134号線の補修が必要など、そういう話を含めて色々なセクションが力を出し合って、お金を出し合えば、漁港を造るお金が足りないという結論にならないのではないか、というようなことも考えるのですね。ただやはり行政の今の立場、縦割りの中でどうにかしろと丸投げにするのではなく、我々がビジョンを作ってどうですかというのを出していくというのが大事だと思います。

参加者：私もそう思います。先ほどの質問の意味は、ビジョンの方が先に検討されるべきではないかということと、先ほどの課長の説明には市民からの参画というものがなかったように思います。本来であればこのWSのような形で、水産業の振興についても市民の総意や意見が得られるといった形式で進めるべきではないかと思い、質問させてもらいました。おっ

## 第9回ワークショップ議事録

しゃったことはよくわかります。

参加者：同時進行でやっていくことだと思います。水産業に対するビジョンがまとまったから、じゃあ漁港を話し合おうということではないし、漁港を造ると決めてから水産業の振興をしようという話でもないのです。両方を議論しながら実行していくというのが大事であり、一つ一つのことは非常に小さなことだと思います。

昨日も漁協で話し合いをしていましたが、せっかく鎌倉で獲れた魚介類が中々鎌倉市民の手に渡っていかない、この現状を変えていかなくてはなりません。そのために我々が何をできるか、例えば浜売りという特徴のある販売がありますが、今はそれが手薄になっているため、朝市の無い毎週末を浜売りのイベントの特集にしようとかいうことも含めて、より市民と漁業の間を縮めていく努力をしなくてはならないのではないかと話し合っています。また、漁協の直売所を造り、新鮮でおいしいものを市民に供給する方法はないのかというようなことも話し合っています。そういうことを実践していくことで、鎌倉の漁業が見直されていき、例えばサンフランシスコのフィッシャーマンズワープのようなものができれば良いな、というビジョンを持ちながらやっていく、それは市民と漁業者がすり合わせながらやっていきたいのですがどうでしょうか。

参加者：それについては全然構わないです。

事務局：話題がWSの検討テーマの部分に移行しているので、タイトルを第二部の検討テーマに代えさせていただいて、ファシリテータ（以下「FT」という。）に議事の進行をお願いしたいのですが。

参加者：まだ今の内容でやりたいのですが良いでしょうか。

まず一言言いたいのは、前回から行政のやり方に不信を持っており、市民の意見をくみ取るというよりは、漁港の案を作って予算獲得のために動く、そうすれば自分たちの仕事ができるというような動きにしか思えなくなっています。それは市民も漁民も幸せになれないのではないかとすごく思います。あなたたちはそう提案して活動すれば仕事になるでしょうが、それをまた県や国で否定されてまた次の案を作る、という感じで何も進まないと思います。なぜそのように思うかというと、今日のところで具体的にいうと、和賀江嶋案、他港への移行で全く、提案した意図を汲み取っていません。例えば和賀江嶋が国の史跡であることは皆わかっていますが、現状で復元などはされておらず、このままでは台風などで削られ、何があったかわからなくなります。あの史跡は国のものであると同時に鎌倉のものであるので、あの史跡をどうしていきたいの



## 第9回ワークショップ議事録

か、何とかしていかないのか、復元したいのではないのか、というのは市としての立場はないのですか。そういった調査はしたのですか。国が指定しているから動かさないではなく、今後どう保護や復元をするのか、ビジョンを作っていこうというのが元々の意見ではないのでしょうか。市民がどう思っているからこうしよう、というように動いてほしいです。

また他港への移行ですが、もし今入れさせてくれと言えば、狭いからダメということになるでしょうが、漁港を造るとなればそれなりのお金がかかるので、元々の意見は、独立した漁港を造るよりもそのお金を使って他港をもっと拡充させる、つまり、お金をどっちにつぎ込んだ方が合理的なのかという話も含んでいたと思います。ここには、拡充させてどちらが有利かという検討について全く書いていないのではないのでしょうか。つまりこういうのを潰して、元々あった漁港案に近いところで市民の合意を得ました、だから県や国に申請しますというようなことばかりやりたいような気がします。前向きに我々の意見を掘り下げているのか非常に疑問に思います。

先ほどの、漁業者から他港への移転について難しいという話はすごくわかりますが、言われているのは、現状では入りません、お金をかけるならこっちを拡充したらどうかというのは何も書いていません。

事務局：一つだけ良いですか。和賀江嶋の話や市としてのビジョンは一番下のこれまでの経緯の欄に書かせていただいています。世界遺産登録のために市は保全管理計画というのを作っており、その中ではっきりと、現状を保存して維持に努める、ということを書いており、これが和賀江嶋に関する今の市の保全管理計画として取りまとめられています。

参加者：今話をされていて、ふわっとした感じに思えます。今回のWSは何をしたら良いのかがふわっとしています。今話を聞いていると、まずビジョンについて決めなくてはならないということです。せっかく市民や漁業者が集まっているので最優先にやるべきでしょう。

もう一つは喫緊に困っている人がいるので、それは解決しなくてはならないだろうということです。まずビジョンを決めることと、喫緊の課題を解決するというのがこの中の最優先ではないのでしょうか。漁港については前回のWSで現状では無理であると出ています。その経済的な部分を解決できるのは十年後なのか百年後なのかわかりません。そのような先のことを我々に考えろと言われても、そんな時に鎌倉市が、漁業がどうなっているかわからないです。そもそも日本がどうなっているかわからないのに、その辺はちょっと無理なのではないのでしょうか。そうで

## 第9回ワークショップ議事録

あれば、最初にビジョンなど解決しなくてはならない喫緊の課題などを議論すべきではないかなと思います。それが明確になれば、このWSはこういうことをやるんだというのが見えてくるのではないかなと思います。

事務局：WSのテーマについて話を進めさせていただきたいと思います。今話していただいている内容自体は、このWSで何をしようかということで、その件については第二部のテーマとしてあげているので、そこで話させていただきたい。FTに議事をお願いします。

参加者：資料に対して不備があるということについては、ちゃんと直すということ。

事務局：最初に申し上げましたが、この資料についてはとぼぐちです。皆さんの意見については私どもの方で全て受け取り、資料は修正させていただきたいと思います。もしこの資料をしっかりと資料として仕上げていきたいというつもりが皆さんにあるのであれば、この中に様々なキーワードを入れて高めていきたいと思います。今は皆さんの前に用意した大きな地図を用いて現状を把握していただくのと、ビジョンの話などをただ言葉で言っても中々皆さん話が難しいと思うので、まずはワークをやっていただき、徐々に意見を高めていただきたいと思いますので、是非次のテーマの話に移らせていただきたいと思います。

参加者：本当に私は進め方がおかしいと思います。漁港代替案ではなく、何度も出ていますが、漁業者として台風の問題とかなんとか解決したいというのは、漁港を建てるための言い訳という話ですが、先ほど漁業者の方から、かさ上げを是非したいという話が出ましたよね。漁港の話というよりも、こういう先にできることについてどんどん話しませんか。

参加者：そういうことを今からテーマで決めるんじゃないんですか。

参加者：今言ったことではまた繰り返しになります。事務局の言った新しいテーマで検討してはどうでしょうか。このままでは話し合いもできないでしょう。事務局の方に先ほど言われたテーマについて話し合っていただきたいと思いますのですが、皆さんどうでしょうか。

事務局：ありがとうございます。

## 第2部

### ③ 検討テーマについて

検討テーマについて、FTから以下のとおり説明を行いました。その後、意見交換が行われました。

## 第9回ワークショップ議事録

F T : 色々な不満や不安を抱えておられるので、色々な意見が出るのはもっともだと思います。

私は前回のWSを受けて、あるべき論を抽象論で議論するのではなく、具体的にどこがどう問題なのかという話をしないかと提案しました。

今日の事務局の資料は昨年度のWSを受けて、漁港を造るというだけではなく、他の方法があるだろうと紹介しているものです。前回のWSでこれがどうしてダメなのか、ダメな理由をはっきりしてほしいという意見があったので、和賀江嶋案、他港への移転案は難しいということをお皆さんに説明するつもりでした。この内容が信用ならないということであると、別途それについて議論しなくてはならないと思いますが、そういうことをずっと続けて、このWSで最後に何が得られるかということが私にはよくわからないため、私からの提案です。

まず浜を上手く使いながら何とか災害を最小限に食い止める方法はないかを検討するチームと、港を造るとしてもこういう港にしてほしくない、できればこういう風にしてほしいというのを検討するチームとで検討します。漁対協の案では埋め立て式だったので埋め立ては困ると、昨年のWSで掘り込み式案が出ているので、それも考えようと用意しました。ここで大事なことは、このWSでこうしたいと言っても、市はそう簡単に動かないということです。我々は決定機関ではなく、市に対してどうしてほしいか、どういうことに対して気を付けてほしいかについて突きつけるための検討会です。仮に市が業者に業務を発注したときに、WSでこういう意見が出ているから、この条件を無視しないようにと突きつけることができるというものです。前回のWSでもこのような意見が出ていることを確認しています。その条件というものをこれから皆で詰めていかないかということです。私は漁港には全く興味がなく、漁港なんか造ってほしくないという人は、浜を検討するチームに入っただき、どうすれば浜の問題を解決できるかについて検討していただき、漁港は反対だが、造られるなら変な造り方をされたらもっと困るので、漁港のグループに入ってこうはできないのかななどを提案したいというのであれば漁港グループに入っただきたいと思います。埋め立ては賛成できないので掘り込み式にしてほしいということであれば、掘り込み式にはどんな課題があるのかについて議論していただきたい。

今日は、いきなり二つ、三つに分かれてくださいといっても、作業のイメージが全くわからないだろうということがあるので、皆さんの前に1/500の平図面を用意しました。今、漁業者さんが浜をどのように使って

## 第9回ワークショップ議事録

いるかについてプロットしてあります。例えば今日の私としての作業イメージは「もし港ができれば、ここの浜は全部オープンになるのか」それが可能かについて確認したり「漁対協案をここに入れ込んでみたらどの程度の大きさになるのか」「もし掘り込み式だったら、どのくらいのスペースを使うのか」「掘り込む場合に国道をどの程度かさ上げしなくてはならないのか」など、作業しなくてはわからないことを確認してほしかったです。もし港ができれば、本当に移転できるのかについても考えなくてはならないし、港を造らず浜を上手く使うという場合には、このスペースは色々な浜の利用法があるので勝手に動かせないため、どうやったら災害をできるだけ小さくできるかということを考えなくてはなりません。そのために今どんな問題があるかについて漁業者と情報交換しながらやっていかななくてはならないし、かさ上げできないのかなど色々な話が出てきます。そういうことをやっていきたいです。もしこれが上手くいけば皆が懸念しているような問題に寄与することがあるかもしれません。

色々な受け取られ方があると思います。例えば港は造るがそれまでの間、大変で放置できないという時に、ここで検討された案が途中段階の対策として有効かもしれません。港は造らないとなったら、ますます浜の問題が重要になってきます。どっちにしてもお互いに関係のあることなのでアイデアを出し合い、浜を使うこと、漁港を造るならどんなことに気を付けてほしいという問題提起をするというのがこのWSの課題ではないかと思って、今日臨みましたが、かなりビジョンを示すべきだという意見が出ました。港を造るという頭で物を考える方向からできるだけ避けようとする傾向があるようです。それはそれで良いと思いますが、皆さんがその話を避けても、もしかしたら市は造るかもしれません。その時に我々がどういう港にしてほしくないという意見がなかったら、行政の都合で造るかもしれません。造ることになったら、反対運動を起こしても遅いのです。だから今のうちに色々詰めておきましょうと、市に要求を突き付けましょう、というのが前回のWSの雰囲気だったと私は思っていたので、今日はこのように準備しましたが、いかがですか。

参加者：先生の言うとおりでと思います。

参加者：今までの中で一番論旨のわかりやすい話でした。さっき参加者の方がおっしゃったように、漁協としてはこの資料の掘り込み式を軸として、緊急措置もなくてはダメだというのが今のムードですか。

参加者：検討テーマについて提案できるのですよね。先生がおっしゃったことは

## 第9回ワークショップ議事録

わかりますが、浜の活動について検討するのは良いが、私はやはり今回全六回やるのであれば、一回か二回は水産業全体のビジョンについて話し合いたいです。さっき話があったように市民がもっと地元の魚を食べられるようにしたい、というのはすごく興味があるし、それがなぜできていないのか、それをやるために今の漁業がどうあるべきなのか、などそういう一番大きいビジョンはやはり一、二回は話し合いたいです。並行して検討しているのであれば、そっちの方にインプットするというのがあった方が良くと思います。

F T : 例えばそういう検討チームがあったとして、入っていただけますか。

参加者 : 入ります。

参加者 : 総論とメニューを間違えてはいけません。今日は何をするのかといえば、総論でしょう。大きな区分と方向感覚をみる総論です。起承転結のまだ転です。いきなり結の話をされてもしょうがないです。

参加者 : 先ほど参加者の話にサンフランシスコのフィッシャーマンズワープの話が出ていましたが、鎌倉の漁業に対する市民の意見を汲みつつ、観光などの話をしながら、漁港を造る・造らない、どういうものを造っていくのかというのは、絡んで重要な物だと思いますので、細かく分けるというよりも、全体で進んだ方が良くと思います。

参加者 : ただ全部を一緒にできないため「今日はこれ、明日はこれ」というようにしていくと、「今回はこれをしているのに、何でこっちを話さないんだよ」となるので、その点は、F Tにきちんと責任を預けてやってもらえば良いのではないのでしょうか。今日確かにこのような物理的なことを話していると、ビジョンはどうなっているのかとなってしまいますが、別にビジョンのことを話さないと言っている訳ではなく、今回はこれと言っているのです、その辺をもう少し冷静にいきたいです。

参加者 : 先ほどの漁協参加者の話は有意義でしたし、それからビジョンのことを話したいという話もあります。自分的には一年間やってきて、漁業者さんたちが皆さんで話し合い、統一した見解は何か、今の考えがあるのであれば、それを伺う機会がほしいです。今までの議論を通して、こういうことをやっていきたい、市としてやってもらわなければいけないなど、漁業者さんの話があればぜひ聞きたいです。

F T : 作業の中でしょうか。

参加者 : はい。どこかで何かそのようなプレゼンがあっても良いのではないかと  
思います。

F T : 自分のイメージとしては、グループに分けてグループ毎に検討したのを

## 第9回ワークショップ議事録

後半になって発表し合って、意見交換をするということですが、考え方によってはWS全体の中で前半はこっち、後半はこっちというように時間的に分けることも可能です。どちらが良いですか。

参加者：自分は前者の方が良いと思います。

F T：グループ毎に分けるということでしょうか。

参加者：正直言って考え方の前提がばらばらなため、そのような人たちが一堂に会しても水かけ論となります。二つに分けて、お互いに冷静に具体的な物を造って見せ合って、との方が良いと思います。

参加者：私は全く逆です。思想が違う人がいるから意見というのはできあがるので、同じ思想の人を固めて話合っても同じ結論しか出ないということは自明のことです。大体、鎌倉市民17万4千人の中でここにいる人だってせいぜい20人程です。これだけだってどれだけ反映できているのかという状況があるのに、これをわざわざ分割する理由がどこにあるのでしょうか。確かに分けた方が早いですが、仮に一緒にやると時間はかかりますが、これまで何年もかけているのに、たかが一回や二回の回数が増えることが何か問題があるのでしょうか。

参加者：何か結論を出したいというならば分けた方が良いと思いますし、とにかくとことん話し合って、結論が出るまでというならばそれはそれで良いと思います。

参加者：グループに分けて効率化するより、一つのテーマをきちんと話をしてそのテーマを話している時は、そこから飛ばないようにすれば良いのではないのでしょうか。

参加者：この会議に限らず、この手の会議をやる時にいつも思いますが、どういう考えの人がどういう風に乗っているかで会議の流れは必ず変わります。これに限らずそれが非常に気になっています。

参加者：だからこそ、F Tがきちんとまとめて、今回はこの話をとにかくやりましょう、というようにしていくべきではないのでしょうか。

参加者：先ほどおっしゃられたように思想が違うのだから、分けて話しましょうというのは非常に危険なやり方です。色々な思想があるから議論する意味があるのであって、そういう人を集めて議論した結果をF Tがまとめるというやり方は良いですが、それは非常に危険なやり方です。

参加者：自分が言ったのはそういう意味ではなく、彼は効率的なことを考えるのであれば、グループ毎に分けてしまうのではなく、議論の仕方をもう少し効率的にした方が良さだろうということです。今の前半の議論でもあちこち飛んでいる訳ですよ。例えばこういう資料を基にこの話をしよう

## 第9回ワークショップ議事録

としている時にやはり別のところについてしまいがちです。それはこういう資料を見せられると不安になるから、ビジョンの話など別の話をしようとなるのは当然だと思います。そこを交通整理することによって議論が散漫にならなくなるのではないのでしょうか。

参加者：散漫になるから決まらないんですね。ただやはり色々な人の意見があった中で決めた方が最終的には気持ちが良いと思います。分けてやると一方が何をやっているのか、わからないので結局後でまたややこしくなります。時間毎に分けた方が良いと思います。

参加者：加えて言えば、大きいテーマから話した方が良いと思います。細かい各論から入るから「前提が違うよね」ということが繰り返されているので、ビジョンが表なら、ビジョンから皆がどう考えているのか意見を集約して、その中で「観光漁業は困るが、直売所なら応援したい」という意見があると思います。

参加者：どっちが先とかではないのではないのでしょうか。結局ビジョンを話す際に各論のことは必ず問題になってしまうので、どっちが先ということではないです。基本的にはビジョンが先なのかもしれないが、今あまりにビジョンがないのですよ。

参加者：おっしゃることはわかりますが、去年のWSの成果としてビジョンが必要であるということが出ています。私はFTに不信があって、それであるんだったら、そこから話そうというのが、流れだと思います。FTは重要だと思っているので、FTは大きいところからまず皆の意見を汲みましようというのが、今回の組み立ての出発ではないかと思います。私の感じていることなので、他の方が違うのであれば各論から入るのも良いのかもしれませんが。

参加者：FTはその辺りどうなのでしょう。なぜ各論から入り鎌倉における漁業のビジョンという大きいところをまずテーマにしないで、具体的な各論から入っていったのはなぜでしょうか。

F T：昨年WSを振り返り、ビジョンということに関して話があったが、漁業形態や販売形態、漁協さんともうまくやってみようなど、それはそれでとっても大きな問題です。おそらく一回や二回では全く話になりませんし、色々な可能性があります。このWSで取り扱うには大きすぎると感じていましたが、そのようなことはないのでしょうか。

参加者：大きいですよ。どんどんあげていけば、社会思想ですよ。ビジョンなんて言葉にふりまわされていますが、コンセプトという日本語の概念論や分析論まで出てしまいます。だからメニューと議論と総論とは異なりま

## 第9回ワークショップ議事録

す。それからある部分について反対運動を徹底するならば、私はやっていますよ。議会や市長に対して行っています。そのために自分は社団法人を起こしました。だから、違った角度からやらなければいけないことと、こういうお茶も出ないけども仲良し学校みたいにやっているのと少しは違います。だから今日の先生の話が一番良かったですよ。

参加者：先ほど漁協の参加者がおっしゃったように昨日話し合ったようですが、水産業の方の話を聞きたいです。水産業の方が思っているビジョンというのはどうなんでしょうか。

参加者：一言でいうと非常に難しいです。水産業の方の口が重いのは毎日頑張っていて歯をくいしばって網を引いているので口が開かなくなっちゃったということですが、自分は口が軽いからべらべらしゃべっています。これはどんな仕事でも同じだと思いますが、日常の仕事に追われるということがあります。肉体的にも色々な意味で非常にきついから、物を考える前に体を動かして一日が終わってしまうということが現実にあります。日本の漁業は皆そうだったんです。それを補完するため行政があったと思います。だから行政におんぶにだっこだったというのが、今までの歴史だと思います。では、それならそれで良いのか、多分それではすまないという時代が来ています。それをどう解消していくのかというのはこれからの若い世代の漁業者に期待するしかありませんし、こういうWSに来てもらって色々な人の意見を聞いてもらい、一体自分たちの仕事は社会でどういう位置にあるのかを自覚することから始めていかななくてはなりません。昨日もそういう話をしていました。それは残念ながら非常に時間がかかるということで皆さまには猶予を頂きたいと思っていますが、我々も単に自分たちの漁獲をあげて金を儲けたいという視点だけで漁港がほしいと言っている訳ではないということは理解していただきたいです。この社会において重要な第1次産業を担っているという自負がありますし、そのことをどうやって漁業者の誇りとしてやっていきたいかということに尽きます。はっきり言って非常に画一的というか単に環境を保全すれば、良いだろうとお題目のように反対される方に対して反発があるというのも事実であります。そういう表面的な対立をどうやって乗り越えていくか。腹を割ってというのは簡単ですが、単純に損得や金がかかる・かからないではなく、文化の領域のこととして話していきたい、というのがこれからの漁協の方向だと思いますし、そういう形では漁業者も一定の理解はしていると思います。

参加者：どこかの回で漁業者の皆さんに話してほしいです。漁業者の皆さんが考



## 第9回ワークショップ議事録

える鎌倉の漁業はこうなんだというのをプレゼンまでいかににしてもやってほしいです。

参加者：簡単にいうと、我々は鎌倉の漁業を誇りに思っています。なぜなら、鎌倉の海というのはものすごく豊かな海であることを知っているのが私たちだからです。他の海に比べてものすごく豊かだということ、鎌倉の財産だということ、私たちはよく知っています。だからこそ、この貴重な財産をどうやって鎌倉の市民の財産にしていくか。要するに鎌倉でとれた魚を鎌倉で売りたいのです。鎌倉で利用してほしいのです。

参加者：もしも埋め立てをしてしまった場合に、腰越や片瀬など今まで埋め立てをしてきた日本全国をみると、一回埋め立てたら最後、次々と埋め立てをしなくてはならなくなっていることに危機感を感じているのです。

参加者：漁協の前のマンションの方だと思うが、あの土地は埋め立てですよ。

参加者：そこまで話がいくと、またおかしくなってしまうので、今漁協の参加者の方がおっしゃったのは「鎌倉の海を鎌倉市民のために」ということです。

参加者：でも、魚場を。

参加者：だからそこまで話がいくとダメということです。魚場が悪くなるのは漁業者の方が一番困るのです。

参加者：でも海で遊んでいる身からすると、その場所が一番危ないんじゃないかと考える場所に平気で漁対協の時に結論を出してくることなどが本当に海のことを考えているのかなと思います。

参加者：漁対協は魚屋もいるので、全然話がわからないんですけどね。

参加者：漁対協の案はそんな神経質に反発することではないのでしょうか。

参加者：今は別に漁対協はどうでも良いですが、それは過去にあった一案であり、今はそれとは別の結論などを導き出していこうという話だから、単に今まで埋め立ててきた漁港の例を見ないで進めて行くのは危険だと思います。別に私たち全員が造ること自体に反対している訳ではなく、毎日浜小屋を見て何とかしなくてはならないと誰もが思っています。台風が来るたびにみるのが辛いです。それをまず、何とかしたいと思っているので、それをまず何とかした方が良くはないのでしょうか。漁業者さんが何を考えているのかをこの場で話していることが少なかったから、どういう風に思っているのかなと思います。漁のことばかり考えているという話もありました。ビーチクリーンをしていても思いますが、漁業に使う網が埋まっていたり流れていたり、結構ゴミが多いです。それを整理整頓するとか、流されないようにするとか、もう少し日常的なことに

## 第9回ワークショップ議事録

気をつけてきれいにしておくだけで、市民との関係ももう少し変わると  
思います。要するに浜小屋イコール汚いと思っている人がたくさんいる  
ことを改善していくと良いのではないかと思います。

参加者：まさにその通りだと思います。漁業者の中にも整理整頓が悪い者もいる  
し、迷惑をかけていることもあると思います。その点は率直に認めます。  
そういうことも含めて漁協の中では市民の方から反発を受けないやり方  
というのをきちんとやっていかななくてはならないと思います。ただ、言  
い訳をするつもりはないですが、長年やってきた方のやり方というのは  
あります。これは漁協に関してではないが、例えば遠洋漁業に行ってい  
る漁業者が過去において何をしてきたかという、ダメになった漁具な  
どは全て海に捨ててきた訳です。そういう過去があって、延々そのよう  
に何でも海に流してしまえば、海がきれいにしてもらえるという幻想を持  
っていたことも事実です。今では誰もそんなことは考えていませんが、  
やはり世代間によって考え方が違うということもあるので、徐々にそれ  
は改善されていくと思いますし、それに対する努力は怠らないようにす  
べきだと思います。

参加者：先ほどの話はすごく共感することが多いです。誇りやそれを財産とした  
いなど共通しているものがあると思います。私がF Tの方と行政の方に  
再三伝えているのは、去年WSで成果が出て、今すぐに漁港を建設する  
のは少し難しいかもという結論が出ています。だがこの資料と今日の話  
を聞く限り、他の選択肢はなく、漁港ありきというように伝わってしま  
うんです。市民感情としては、去年は七回だったが一生懸命参加して、  
やはり今の時期は無理なのではないかということ、また今年もその  
具体案を考えてくれと言っても去年無理って言って、「他のことを先に考  
えようよ、もっと大きなものを考えようよ」と言ったのに、何でそれが  
第一回の大事なテーマとして出てくるのかというのが、すごく違和感  
があるし、私も全反対ではないですが、結局最後に港を造ろうという会に  
出てあなたはそれに賛成したんですね、という話になるのもおかしな話  
だなと思っていました。

参加者：今のご意見は自分も理解しましたが、じゃあ、結局次回何をやるのとい  
う話ですよ。私はこういう漁港を建設するためのWSだと思って参加  
してきました。どういう漁港を造るかというのを話し合うための会と思  
って自分は来ました。ビジョンというのは結局漁港を造る・造らないと  
いう話になるば、そういう話にするとか、決めた方が良いのではないで  
しょうか。

## 第9回ワークショップ議事録

参加者：私の意見としてこのWSはなくても良いと思います。その前に水産業全体のビジョンの検討会なりWSがあって、それに参加する人は参加しても良いと思いますし、漁業の方も魚屋さんの方も参加してそれを検討するというのが先かなと思います。

参加者：いや、それは違うと思います。漁港を造るというビジョンは、水産業全体というソフトウェアのビジョンとは別にあると思います。要するにこういう漁港を造りたいという夢を持っている、希望をもっている、それは漁業者だけではなく市民全体でこういう漁港あるいは漁業施設を鎌倉に造りたいと思っているというビジョンは、きちんと立てて行くべきだと思います。青図をたててCGを作って、こういう漁港を造って建てていきたいと思っているのは一つの柱としてあるべきです。

もう一つは先ほどからおっしゃられている鎌倉の水産業はどういう位置づけなのか、どういう風にやっていくべきなのか、についてのビジョンはそれとはまた別のところで議論していくべきなんですね。このWSは前者の方に軸足が載っていると思うのです。ですが、その本来の水産業がどうあるべきという論議をここでするなど言っている訳ではありません。何でこの具体案としての漁業施設について検討するかを自分が代弁するというのはいかなるということなのではないかと思います。

参加者：先ほど最初に話しかけたところから埋め立ては反対だとかこういうことになりました。要は漁業の人はこういう考え方なんだということを示していただいたと思います。

参加者：そうするとまた元に戻ってしまいます。だから、FTの提案通りにやってみたらどうでしょうか。

F T：今日やろうと思ったことはほとんどできないので、今、ファシリテータ補佐（以下「FT補」という。）から整理します。

F T補：五分だけください。旗揚げアンケートをやります。今の話を含めて私が用意した今後の進め方、今年何をやるかについて、確認をとっておきます。次回からの組み立てを考えていかななくてはならないのでご協力をお願いします。今年のWSで何をしたいか。該当する番号を揚げてください。

①将来的な漁港整備に備えてもしも漁港が整備されるならば、という視点から、先ほどから出されているような漁対協案とか、掘り込みであるとか、具体的な計画案や代替案についてその欠点や良いところを含めて検討したい人は①を揚げてください。

②それよりも、喫緊の課題があるだろうと、将来的な話よりも、もし

## 第9回ワークショップ議事録

も浜を使った漁業が続けられるならば、という視点から現状の課題に対して、より現実的で具体的な解決策について検討したい人は②を挙げてください。

③将来的な漁港の是非を判断するためにも、いずれの場合においても必要だと考えられるビジョンなどの項目や課題というのについて整理をしておくというのがまず大事、それについて詳細に検討しておきたい人は③を挙げてください。

④この三つの方向性っていうのを、今の段階で将来的な漁港整備の是非、現状の浜利用など漁業継続にあたっての課題解決についても、今の段階ではどういう風にアプローチしたら良いのか、どう考えたら良いのか、今日の時点ではまだわからない人は④を挙げてください。

⑤それ以外に今の四つのどれにも当てはまらない、あるいは、別の意見があるという人は⑤を挙げてください（複数回答可で、旗揚げアンケート実施）

F T 補：⑤その他の意見はどのようなことですか。

参加者：要はビジョンからやろうということです。

F T 補：漁港整備の是非を判断するためにも、そういう方は③に入ってもらって良いでしょうか。

参加者：是非ということではなく、まず、鎌倉の漁業をどうしたいのかという話をしたいです。漁港がどうかではないです。

F T 補：では③か④をお願いします。

参加者：この場合は漁港をどうするかという会にきて、それをやっている訳ですよ。

参加者：でも、それは「今は無理」と否定されてしまった訳です。自分はそう思っています。

F T 補：では、他にその他であげられた人はいますか。

参加者：同じ意見ですし、一旦WSはなくて良いと思います。先ほど参加者が言われたように平行するのではなく、大きい方を先に、ハードウェアもソフトウェアも両方検討する会を立ち上げた方が良いと思います。それには市民も参画します。

F T 補：他に⑤の方いますか。

参加者：市は市民の意見を汲み取ることよりは、漁港の案を進めたいという印象を受けるのでWSを終わりにしたいです。

F T 補：他にいますか。

参加者：主催者である事務局が水産業・漁港振興の立場で始まっているから、その方向で何か結論が出るというのは自然の動きです。私の意見は、政策

## 第9回ワークショップ議事録

創造部などと一緒にやった方が良いでしょう。これからはどんな部局の政策も、色々そうでない部局と接触しながらやっていく世の中でしょう。そのために鎌倉市は政策創造部というのを作っています。色々な部局のことをわきまえながら、当該部局でやっている議論の中で、意見交流を内庁的にやってもらわないとダメだと思います。したがって⑤です。

F T 補：次に行きます。二つ目はこのWSの進め方についてです。とはいえ色々なテーマがありながらも、回数が限られています。これはちょっと直感的にお答えいただければと思います。

①今日は第九回WSで、このあとGWを三回です。とにかく話し合いを徹底的に行って最終回にもっていくという。GWというのは、今のビジョンというか視点・考え方を皆さんから聞いたので、このGWでできるかどうかは検討してみたいと思います。GWを前提にですが、とにかく三回とも話し合いに使いたい人は①を挙げてください。

また、現地踏査で複数の視点から現場を見るということも大事ということを事務局でも検討しており、それを踏まえての②③④です。

②まずGWを二回やってから、現地踏査で検証し、最終回にもっていききたい人は②に挙げてください。

③次に現地踏査にまず行って、まず現場を見て共有して、GWを二回やって最終回に検討をするためのGWをもっていきたい人は③に挙げてください。

④GWをまずやって、間に現地踏査を入れて、課題の確認であるとか、各グループが提案しようと思っている物を検証し、もう一度GWをやっ、最終回にもっていききたい人は④に挙げてください。

⑤それ以外の人は⑤に挙げてください。

現地踏査を入れるか入れないか、どこに入れるかという点で整理しています。この状況の中で必ずしもこのようになるか保証の限りではないが、直感的にでもお答え頂ければと思います。

参加者：現地踏査って何ですか。何時頃のどんなシーズンにやるつもりでしょうか。穏やかなシーズンの真昼間に行ったら変じゃないですか。

F T 補：今日の資料を見ていただくと、一番直近で8月25日です。

参加者：何時からですか。

F T 補：それはちょっと状況見てからです。

参加者：現地踏査って以前から言っていますが、何時頃見るんですか。

参加者：見る内容によって変わるんじゃないですか。

参加者：だから大切だと言っているのです。

## 第9回ワークショップ議事録

参加者：だからここで意見を言えば良いのではないですか。

参加者：ここで何が見たいか、どういうことを知りたいかを決めて、じゃあそれを見る適切な日時は、と決めるのではないですか。

参加者：ここにいる人は何千回も見えていますよ。

F T 補：各自ではそうですが、それぞれ違う考え方の人が一緒に行った時にどんな風景が見えてくるかっていうのを、現地踏査の目的として含めたいと思います。

参加者：現地踏査というのは見学会ということですか。

F T 補：前回の資料の中で配っていると思いますが、課題として見るべき点は何かということと、整理をいくつかこちらでも準備をしていきます。

参加者：例えば、船の出し入れが危険を伴うということを含め、それを実際に体験していただくということを含めてやるなど、そういうことは事前に漁協とも相談してやっていただきたいです。ただ外から眺めても何もわからないだろうと思います。

F T 補：もちろん実際に行く場合には、何をするかというのはもう一度詰めたと思います。現地踏査を入れるか入れないかという点でも意見が分かれますので、また旗を挙げてください。(複数回答可で、旗揚げアンケート実施)

F T 補：⑤その他に挙げている人はどういうことですか。

参加者：前回と同じ意見で、全体から話す会をもう一度ちゃんとコーディネートして、ここにいる方でそれに参画したいという方をちゃんと召集するということです。他の市民なり他の関係者も召集するし、ちゃんとした会を作るということです。

F T 補：別枠のWSが必要ということですね。

参加者：ここでやっている限り何回話し合っても似たような話になる気がします。

F T 補：では三十秒だけオプションで手を挙げてほしいです。最終回のプログラムの進め方ですが、今の進め方で行くと最終調整のためのGWを行った後に、

①最終回でもGWの時間を設けて、最終案をそれぞれのグループが提示し、全体で意見交換をして総括でしめくりたい人は①を挙げてください。

②例えば、最終案のそれぞれの進め方、考え方がありますが、専門家のレクチャーが必要という意見があったかと思うので、会場で専門家のレクチャーを受けるような、例えばセミナー形式にしたい人は②を挙げてください。

## 第9回ワークショップ議事録

③グループ案の提示を代表的なパネラーとして意見交換をしてもらい、それに対し全体で意見交換を行えるようなパネルディスカッション方式で進めたらどうかという人は③を挙げてください。

④最終案の提示というのがベースになるが、今日のような感じで全体での意見交換の部分に時間を確保するような進め方が良い人は④を挙げてください。

⑤それ以外の方は⑤を挙げてください。

これもイメージを確認しておきたいということなので、直感的なところであげていただければと思います。

参加者：チーム分けすることに決めているのでしょうか。自分はそこにすごく反発しています。思想が違ふとまで言っていて、その思想が違ふ人を集めて議論をしましょうなんてどうなんですか。

F T 補：それぞれの優先順位がずれていると思いますが、どれも大事な話のため同時並行的に進めて行くために、効率的に進めて行くためにはGWという考え方もあるのかなというように今は考えています。

参加者：希望としては分けるのか分けないのかをきちんと決めてもらわないと投票もできません。

F T 補：皆さんはどうですか。

参加者：自分はとりあえず投票します。別に②はグループを作るとはなっていないんじゃないですか。

参加者：今の説明がそれぞれの最終案の提示となっていたので、全体でやるのかと質問しました。

F T 補：今日の話し合いの中でひっくり返ってしまった部分もあるので、必ずしもそれを前提にするのではありません。

参加者：項目別のGWにするかはまだ決めていないというので良いのでしょうか。

F T 補：今日の雰囲気を持ち帰って、ちゃんと相談して練り直しもします。

参加者：そこは無でということで良いのでしょうか。

F T 補：そこは無で良いです。

参加者：でもそういう意見をもっている人は入れても良いのではないのでしょうか。

参加者：GWをそういう風にするのかどうか決めた方が良いでしょう。

F T 補：では、これは次回にまた確認させていただきたいと思います。とりあえず、今後の進め方、プログラムも限られているということなので聞いてみました。これは保留にします。

参加者：WSはなぜ、やりっぱなしではいけないのですか。WSとは一回一回が大事な訳で何か結論を出すと言っても、その文言によって捉え方が違う

## 第9回ワークショップ議事録

のでWSって結論を出すような場所ではないですね。

F T 補：それは昨年度から何回も先生が言ってくさっているが、やはり結論を求めたいという気持ちが皆さんあるようです。それぞれの思いが上手く伝われば良いなと思っている。どれが一番とか、優先順位がどうかは無いと思っています。時間もないのでこれはまた保留にする。

事務局：一つ良いでしょうか。現地踏査を、現地を見るというやり方ではなく、例えば現地の状況をビデオや写真などのビジュアル的なものを使って、説明や紹介してもらえれば良いよ、という意見もあると思います。事務局が準備するにあたってどちらが良いのか聞きたいです。

参加者：その提案そのものに反対します。現地踏査というのは、現地に行き物を触ってみることが大事であり、ビジュアルでは伝わらないことがあるから現地踏査につながるの、その提案に反対です。

その提案自体おかしいと思いますよ。だって写真を見ることはいくらでもできます。大変だということは文言で書いてある訳です。現実に来て船を押ししてもらえば、船が重いことや危険なことがわかるのです。

参加者：事務局が言いたかったのはその日に行けばその日の様子しかわからないが、ビジュアルであればこんな日があつてこんな日もあるというのがわかるということですよ。

参加者：それは私たちが工夫してわかりやすくセッティングしますよ。例えば船に網を積んで押ししてもらえば重さがわかります。そういうことが大事だし、知ってもらいたいのです。

参加者：賛成です。そのような漁業体験をやらしていただけるのであれば行ってみたいです。

事務局：ではなるべく体験を含めた現地踏査を企画していくということで良いでしょうか。

F T：大きい問題が残っています。このWSをやるかどうか、やるなら次回どうするか、という意見が分かれているため今のままではあることをやろうとすると、必ず反対される方がいます。その方は、では次から抜けるという意思表示をされるか、あるいは新しい会をやるべきだから、このWSは解散しましょう、など皆さんどうしますか。

参加者：私は分科会を設置したらどうかと思います。WSを二時間やる、その後一時間から二時間ほど、WSとは別の分科会みたいなものを開きます。例えば自分たちが最も皆さんに教えていただきたいのは、鎌倉の魚をどういう風に利用したいのかを一番知りたいことである。例えばそれは生で食べたいのか、店として売っている魚を食べたいのか、色々な利用の



## 第9回ワークショップ議事録

仕方があると思いますが、どのような利用の仕方が自分たちにとって一番便利なのか、一番理想なのかを含めて、聞きたいことがたくさんあります。そういうことを聞けるような、非常に具体的な水産資源の利用に関する分科会のようなものを開くなどをしたいです。こういうことは非常に個別的なことのためWSの議題には上がりにくいですが、こういうことを分科会としてやっていけたら良いのではないのでしょうか。

F T : このメンバーで分科会を作るといえることでしょうか。

参加者 : そうです。希望者に来ていただくということです。

F T : 他にはありますか。

参加者 : 漁業者の皆さんにこれからの鎌倉の漁業をどうしたいか、鎌倉市民に対してどうしたいか、というのをプレゼンしていただきたいです。皆さんどう思っているかを参加者が話してくれたが、事前に準備して話してほしいです。それは申し訳ないですがこういう漁港がほしいではなく、これからの漁業などについて知りたいです。そして、我々もビジョンとは何だろうと考えたいです。皆さんがそれに賛成していただけるなら、漁業者の皆さんには仕事がある中で大変だろうと思いますが、そういうことをやってもらいたいと思います。

参加者 : 漁港を造るのに反対といっても、色々な意見がありそれを一回整理した方が良くと思います。反対の理由というのは防災であるとか、お金であるとか、をざっくりで良いので聞きたいです。

参加者 : それは去年やったと思います。成果としてちゃんと書いてあります。全否定されても困ります。

参加者 : もう少し、具体的に何か聞きたいです。

参加者 : 今から反対する理由とかやってもしょうがないんじゃないですか。

参加者 : そうですね。

参加者 : もう少し前向きにいきたいですよね。なぜ反対しているのかよりも、こういうビジョンがあったとか、だから自分はビジョンを作りたいというのがあります。

もう一つは喫緊の問題をクリアしていくというポジティブな方に行きたいです。前回に、とりあえず現時点では無理だというように結論づけられているので、それをもう一度掘り返しても同じ話になります。

参加者 : これは大変失礼な言い方になりますが、自分の家の前だから本当は嫌なんだと言っているのだが、それを対外的に例えば臭いの問題で嫌だとか、そういう風にすり替えてしまっている人がいます。

参加者 : その方のそれは失礼な話だと思います。

## 第9回ワークショップ議事録

参加者：どちらかというと市民の代表として参加しているつもりなので、数十億円の税金の無駄遣いを防ぎたいという思いで参加しています。ただ、家の前だからという訳ではありません。

参加者：それはあなたのことを言っているのではなく、そういう方もいるだろう。

参加者：そういうことを言っている人がいるのでしょうか。

参加者：最初はそう思って参加した部分もあるかもしれませんが。ですが話し合っている内に、それだけじゃないということはさすがにわかります。

参加者：そういう方はそれで良いと思います。だが今だに反対している方はいて、すり替えている方もいると思います。それをざっくばらんに話したいです。

参加者：今はもうそんな方はいないのではないのでしょうか。

参加者：そういう対立をしているのは不毛です。それはやめましょう。

参加者：さっきから気になっていますが、漁港を造るのは不可能だという結論が出たという言い方も私には納得いきません。そういうことではないと思います。文言というのは非常に不明確な部分があって、今のようまだビジョンが不明確な状態で、要するにこれからの鎌倉の水産業をどうしていくかというビジョンもなしに、漁港だけを整備することはできないよということだと思います。それをその前段がなくなって、漁港はできないと言われてしまうと、あるいは、それが独り歩きし始めてしまうと、自分たちは立場がありません。その辺も本当に注意してほしいです。

参加者：それは全くその通りで全く否定していません。だが、去年あれだけ時間をかけて議論して、たどり着いたのがこれです。

参加者：だから、それをポジティブに考えようということです。

参加者：自己矛盾になるので、少なくともこれに書いてあることを否定するのをやめましょう。あなたがおっしゃる通り、将来にわたって漁港建設を否定するつもりはないというのは全くその通りだと思います。だが一方において、ビジョンの明確化は示されるべきであるというのが、我々が出した結論です。漁港建設を議論するために、より細かい情報が必要であるというのも自分たちが出した結論だったでしょう。そこを外れて議論するのをやめようと皆さん感じているのです。ここから違うと言ってしまうと、自分たちの出した結論を否定することになります。結論というか成果を否定することになります。これは皆の色々な思いの共通項として作られた成果なのでこれを外れたり、後戻ったりするのはどうかと思っています。

参加者：それに対して外れているという風に参加者が感じたのは、突然去年の結

## 第9回ワークショップ議事録

論に対して、漁港ありきの議論が始まってしまったことに対する不信感ですよね。

参加者：私が最初に言ったように、皆さんそういう人が多かったです。私は今日チーム分けするのに反対だと言っただけです。ちなみに前回私が言ったのは空想論を作る案だと言ったのはちょっと。

参加者：必ず誰か何かこう言ってこう言ってとなるから、都合良く議論はマルチになりません。

参加者：ここにはまずは経済的という問題があり、それがOKな時が来ればまた考えれば良いです。それって十年後か五十年後か百年後かわからないので、その時に考えるべきだと思います。その時の時代にマッチしたものをその時に考えれば良いです。現時点で漁港のワーキングを作ってと言われても、その時っていつなかわからないし、どういう環境かわかりません。ビジョンの前に百歩譲って、ビジョンがなかったとしても、現状はわからないのに何を考えれば良いのかさえ分かりません。

参加者：漁対協もそうやって、結局何年後かにWSを開催することとなりました。坂ノ下も埋め立てられてマンションができて人も住んで、となりました。前は確かに何もなかったんですよね。だから確かに計画をした時と、実際に出した時に十何年も経つと状況が変わるのはありますよね。

参加者：よく市役所が費用対効果を出せっていうのに、詳細が分からないから出せませんというのはこれこそ、そうだと思います。将来的に造れるか全くわからない状態なのに、その時の想定さえ全くわからないのに、漁港の案だけ考えてください、どういう漁港だと困るのかを考えてくださいと言われてもわかりません。

参加者：私がおそらく一番不信感などを言っていたので、何を意味したかという、市民がしっかり情報を知るべきだし、行政の方からも知っている情報を出してもらおうというWSの成果は出ていると思います。まずは代替案ができるかできないかという情報をぜひ吸収したいと思って参加しています。さっきのビジョンの話についてもWSの成果として、ビジョンが必要なので、まずそこからやりませんか。なのに無理があるといった漁港の案を中心に話そうということに対して、去年のWSの成果を組んでいないという気がしてしまいます。そういう、去年のWSの成果を組んだ形の組み立てなり進め方なりをしてほしいなというのが、自分の不信感と言ったところですか。そういう進め方をしていただけるのであれば、是非協力もしたいし、議論もしたいなというのが思いです。

参加者：例えば浜売りをもう少しどうしたら、皆の口に入るのかなどは本当に重

## 第9回ワークショップ議事録

要なことです。例えばここ[参加者に提示された大判図面の由比ヶ浜にあるトイレ付近を指して]にずっと並べたら、ここは134号の壁が高く、ここだったら良いのにと純粹に思います。浜の広い所や道路の高さがあるところに浜小屋をまとめて、もっと頑丈なものを造ったら良いのではないかと思ったりしています。

F T : 時間がなくなってきたので、少なくともこのWSで港の話とか、構造強化とか具体的な検討をしなくてよろしいということです。つまり、限られた回数で、現場を見せていただくのが一回、漁業者のビジョンについては是非プレゼンテーションしてほしい、それでディスカッションすると、市民が鎌倉の水産物をどのように使いたいかという点で議論してほしい、などこれらをやっていくとあと一回しかありません。なので最初に言った検討をこの回数の中に入れてなくて良いですね。やったとしても中途半端になります。だから、ビジョンに関してプレゼンテーションをしていただく、我々はそのプレゼンテーションを受けて、ディスカッションしましょうということです。そして、水産物をどうするかということについて知恵を出し合いましょう。現場を見せていただきましょう。それで最終的にこのWSでどういう感想を持ったかということです。

参加者 : 要するにまとめるべき成果にたどりつかないということですか。

F T : そうです。時間がありません。

参加者 : 何をまとめるべきかをちゃんと明確にしないからだと思います。だからこういう風にもめるんだと思います。

F T : 私としては具体的に困っている現場があるのだからどうするかとか、もし港が造られるとしたら行政任せで良いか、それに対して注意事項があれば提案した方が良いのではないかということで、提案したが、皆さんはそれよりやるべきことがあるということだったから、その方向で組みなおして良いですか。

参加者 : それか、分科会をするかですね。

参加者 : 成果ありきという内容ではないということであれば、おっしゃる通りやってみようがないかなということになります。無理でも何でも成果を出すか、成果を出さなくて良いというならやるば、必要ないんじゃないかというのは確かに重要な選択肢ですよ。

F T : まとめ方は色々あります。ビジョンということでディスカッションして、もう一度まとめ直して整理する、つまり一回一回勉強会形式だが、ディスカッションを踏まえて報告書を作っていくということはできます。

参加者 : 例えば、すでに何回か使ってしまっていますが、このWSの後に残って

## 第9回ワークショップ議事録

分科会をやる場合、場所とかはあるんですか。

事務局：確かに二時間というのは短いので、WSをやった後に皆さんが残ってやりたいという場合は一時間でも二時間でもそれは可能です。

F T：こういったことを検討してみたいというチームができて個別にやることは可能だと思います。

参加者：分科会の方が良いのではないですか。分科会の方が自分は好きです。

参加者：しつこいが、同じ思想の人を集めて、強引に成果を出すために同じ意見を。

参加者：じゃなくて、分科会で色々なメニューを作れば良いのです。AさんはメニューAをつくって、BさんはBをやって、あとは皆さんでほしいものを選べば良いです。

参加者：意見の違いで集まるのではなく、テーマで集まろうということですね。

F T：つまり漁港を造ろうというグループではなく、どういう造り方をしたら困るという人と造りたい人が一緒になるということですね。

参加者：同じ時間にやろうとした場合、片方の方にでたら片方にいけない訳ですよ。それはおのずとそこで分けなければいけません。

参加者：時間があるんなら全員でやれば良いですよ。

参加者：やはり全員でやるしかないじゃないんですか。

参加者：例えばここではまとまってやって、分科会でそれぞれ勉強をして、また分科会の延長線上で、皆で集まろうというのがあれば、それで良いのではないですか。

参加者：私が言いたかったのは、設置していて分けるのがおかしいと言っているものであって、やりたい人がやるのは良いです。別の時間にこのWSの後でも、別の時間でも勝手にでも集まって、話し合いをしようというのはあって然るべきだと思うし、私も行きたいです。それがあれば、ぜひ行きたいです。ただこれを分けて、たぬきさんチーム、うさぎさんチームに分けて、一つの意見で集まったら、やる前から結論はわかっています。

参加者：じゃあ、どうすれば良いのですか。

参加者：それをWSの成果として出されるのはおかしいです。

参加者：そう、それをWSの成果として出されるのはおかしいです。

参加者：WSとしてはやらなくて良いのではないですか。WSの分科会ということでも良いのではないですか。

参加者：そういう意味なら賛成です。WSとして分けるのに引っかかっているのです。分科会で出た意見はWSの意見ではないという話です。

## 第9回ワークショップ議事録

参加者：要するに個人的な勉強会ということですね。

参加者：言葉は悪いが、市役所とは全く別のところで、例えば明日集まろう、というのは個人的にやれば良いと思います。

参加者：せっかくこういうテーマで集まった人が月に一回集まるので、こういうテーマに興味のある人は、この後、皆で意見交換しようということの良いのではないですか。WSでは意見を出せない傍聴者の方もいるし、そういう人も含めて話し合える場を作りたいです。

参加者：どんなテーマでも全員で話して、全員の意見を聞いて、としたいということですか。

参加者：WSの成果とするには全員の意見が必要なので、分科会の意見がWSの成果ではありません。

参加者：分科会は勉強の場でしょう。

参加者：だから全てのテーマが全員で話し合わなければいけません。

F T：わかりました。どんな分科会を結成してどのタイミングでやるかについて、皆さんの意見としては、全体的にはそういうことをやっていきたいと思いますということですね。その後色々なテーマを出されて議論するのは良いということです。私は本来それが大事だと思います。このWSは市の主催でやっています。本当は市民が自ら問題意識をもって自らやっていくというのが良いので、そういうことに入っただけなのであれば、私としても素晴らしいことだと思います。

全体で何かやるということに関してどうするかということですが、限られた回数でどうしましょうか。今まで出てきたのは、市民が鎌倉で水揚げされる水産物をどのように使いたいのか、なぜ流通していないのか、その点に関して議論をしようということをして1回、漁業者さんが、現時点でどんなビジョンを持っているのか、あるいは、どうしたいと思っているのかについてプレゼンテーションしていただくことで1回、あとは現地踏査で1回です。そして残り1回でそれまでやってきたことに対して総括します。そういう報告書を作って、皆さんに見ていただく、ということが良いでしょうか。具体的な検討については、必要があれば部会を作ってやっていくということをお願いします。

参加者：確認ですが、分科会はWSではないので、傍聴に来ている方も参加できるのですね。

傍聴者：もし分科会があって、どんなテーマがあって、グループ分けされてしまうと、全部のテーマに行きたい人もいます。だから、やはり一つのテーマで分科会があった方が良いと思います。漁業者さんの話も聞

## 第9回ワークショップ議事録

きたいし、水産業の話も聞きたいし、色々なことを聞きたいときに一つのところしかいけないというのは。

参加者：例えば漁業者さんの話というのは、個別に聞けると思います。

傍聴者：でもそれは、一個人の漁業者さんの話であり、GWの時に何で漁業者さんは漁港がほしいのか聞いたら「他のところにあるのに鎌倉には無い。プライドなんだ。」と言われてしまうと、「プライドのために税金」となってしまいます。でも、それは1人の漁業者さんの話で、全部の漁業者さんの話ではないので、やはり色々な漁業者さんの話を聞きたいです。

F T：分科会について、私どもが担当することは全くないので、それは、その方々の方向性によります。それではあと四回お願いします。

### 終わりに

事務局から次回の日程調整、閉会挨拶を行いました。

なお、第2部④全体ワーキングは実施しませんでした。